

第2回（仮称）彦根総合運動公園整備計画検討懇話会 議事概要

- 日時：平成26年11月27日（木）9：30～12：00
- 場所：滋賀県大津合同庁舎7-A会議室
- 出席委員（五十音順、敬称略）：
 - 一圓 泰成、植西 正寿、河上 ひとみ（副座長）、西條 智晴、坂 一郎、佐藤 馨、只友 景士、辻井 美恵子、濱崎 一志、原 陽一、松岡 拓公雄（座長）、山田 和代、山田 静男
 - （欠席委員 岩根 順子、武田 史朗）
 - （事務局 木村国体準備室長、国体準備室員）
 - （彦根市 疋田企画振興部参事、藤原道路河川課長、古川都市計画課長補佐ほか1名）
 - （彦根市教育委員会事務局 竹中保健体育課長ほか1名）
- 配付資料：別添のとおり（非公開資料除く）

【議事録】

1. 開会

- ・本日の審議事項については非公開で実施する旨を事務局から説明。

2. 説明・報告

- ・前回の委員からの質疑等に対して彦根市から説明。

（彦根市）

「サッカーJリーグ対応の施設整備、まちづくりへの位置づけ」に関して

Jリーグの基本構想は、「地域に根ざしたスポーツクラブ」として地域に愛されるクラブとなるため具体的にはホームタウン活動や地域スポーツの振興活動および介護予防事業等々、地域と一体となってまちづくりに貢献されてきた。日本経済研究所による「Jリーグの存在が地域にもたらす効果に関する調査」の波及効果事例からも、彦根はもとより湖東地区におけるまちづくりや賑わいの創出には大いに期待できるものと思われる。しかしながら本市においてはJリーグ対応の施設は考えていない。

「金亀公園と（仮称）彦根総合運動公園の一体利用」、「金亀公園の内湖復元など世界遺産登録を考慮した景観への配慮・工夫」に関して

金亀公園は（仮称）彦根総合運動公園と連携させていくべき施設と認識している。今後、県と協議・調整を図りながら、総合的な施設整備を検討し、金亀公園の再整備を実施したいと考えている。なお、本市の公園整備の基本計画である「彦根市緑の基本計画」も改訂し、彦根市における重要な公園として位置づけていく予定である。

また、金亀公園と彦根城世界遺産登録の関係は本市も重要と認識している。金亀公園の再整備については（仮称）彦根総合運動公園とともに積極的に景観上の配慮を考えていきたい。

また、内湖復元について、膨大な事業費が必要になり、金亀公園の既存施設の代替の検討等、様々な課題があることから、事業実施には相当な時間を要すると考えられるため、施設整備の景観上の配慮とともに総合的に検討していきたい。

「交通アクセス・渋滞解消」に関して

渋滞対策については本市の構想、および現在取り組んでいる状況を説明する。

国体主会場選定においては公共交通機関からの利便性の良さが挙げられている。彦根駅から徒歩圏内なので公共交通機関による来場を第1に考えているが、自動車での来場も多数見込まれている。会場周辺については会場を周遊でき、駐車場への誘導路線として新たに2路線の新規市道整備を考えている。

また、渋滞対策については、歩行者、公共交通機関あるいは車の誘導等、総合的な対策が必要と考えている。このことから本市では2カ年（今年、来年）にかけて都市交通マスタープランを策定中である。この中で、まずは国体開催時の交通対策の基本方針をとりまとめていきたいと考えている。

次に、現在具体的に進めている道路事業として、滋賀県により名神彦根ICから国道8号古沢交差点に向けてバイパス道路の整備が進められている。これは名神彦根ICから国道8号と国道306号の外町交差点にかけての本市の市街地に入っていく道路が慢性的な渋滞を起こしていることから、渋滞対策として進めている。平成31年度完了予定で進められているが、完了すればICから計画地まで主要な交通アクセス道路になると考えている。

国道8号の慢性的な渋滞解消として、国によって国道8号バイパスが進められているが、現在彦根市域、鳥居本地区について事業実施している所であり、市としては国体開催までには彦根ICへの接続を強くお願いしている。これができれば国道8号が国体主会場へのアクセス道路にもなると考えている。また、本市が取り組んでいる都市計画道路事業と主会場周辺の道路整備を併せて国体開催時まで完了する予定であり、これによって中心市街地の交通の分散化が図られることとなり、さらに、交通誘導・案内板等による誘導・緩和も併せて考えている。このようなハード対策以外にも郊外に大規模な駐車場を設置し、他の国体開催地でも取り入れられている国体開催時のシャトルバス運行も都市交通マスタープランの策定を経て考えていきたい。

・彦根市の回答に対する質疑応答

(座長)

現在、交通マスタープランを計画中ということであるが、ICの出入り口周辺など、道路が接続する所でブレーキを踏むので渋滞すると思う。マスタープラン上で周辺の道路を拡張する計画はあるのか。

(彦根市)

道路拡張は計画していないが、現在混雑している道路に接続する道路を整備し、一路線に集中しないように誘導・案内を行っていきたい。

(委員)

Jリーグ対応施設は彦根市としては別に作るということではなく「考えていない」ということか。

(委員)

彦根市では、Jリーグのクラブチーム招致に向けて、積極的に取り組む予定はないと

いうことか。

(彦根市)

本市の体育協会、サッカー協会の思いは聞いているが、Ｊリーグの招致となるとかなりの財政負担がかかることになるため、現段階で具体的なプランはない。

(委員)

「現段階でプランがない」ことと「10年先を考える」ことは別だと思う。人口10万人規模の都市なので無理することはないと思うが、他の自治体の事例を見た時に関連する事項を考慮したうえで招致しないという結論であればよいと思う。

(委員)

せっかく立派なスタジアムができるのだからそれをまちづくりに活かすという視点は地元の自治体としては欠かせないと思う。彦根市が単独でＪリーグを招致するのは難しいと思うが、これは県の施設であるので、例えば滋賀県サッカー協会がＪリーグチームの育成をするなどの可能性はある。全国でＪリーグ対応施設がないのは滋賀県のみらしいが、せっかく百数十億円もかけて整備するのに地元の彦根市がそれを否定するのは残念である。これから滋賀県サッカー協会とも検討されて是非ともまちづくりに活かして欲しい。

(委員)

それほど人口はないが県内に1つぐらいＪリーグ対応の施設があってもいいのではという視点はある。アメリカ・ピッツバーグは昔「鉄のまち」だったが製鉄が衰退した後、これからは情報・金融の産業を育成しなければならないと考え、人材を集めるためには、まず、プロ野球チームとプロのアメフトチームがないといけないということで、アメフトの試合ができる球団・球場を作り人材が集まり住める街としていった。ただ、ピッツバーグは人口250～300万人の都市であるが、彦根市は人口10万人規模であり周辺を含めても30万人の都市だということを考えると、やる価値があるかという懸念はあるが、県の施設としてなら可能性はあるのではないかと。彦根市の判断だけでは出来ないが、この懇話会では体育関係の方々もいらっしゃるので、長期的に考えていけるのではないと思う。お金のかかる施設なので費用負担を含め検討することはあるが、今の段階なら夢を語って考えることはできるのではないかと。

(彦根市)

昨年度の主会場選定委員会でも言われたが、主会場招致できればＪリーグに限らず、陸上の世界大会等様々なイベントが開催され、それが起爆剤となって湖東地区に波及効果があるという認識は持っている。Ｊリーグと限定であるがその可能性については昨年度に続いての検討課題と受け止めたい。

(彦根市)

市長の考え方は「世界遺産」と「国体」、この2つをまちづくりに活かしていくことである。「Ｊリーグ対応施設」となると世界遺産登録への影響が気になる。現在、彦根市

では今後5年間の総合計画を策定中であり、本日頂いた意見は市長に報告し総合計画の中で反映できるか検討したい。

(座長)

Jリーグの可能性については、施設計画に影響するので早めに決めないといけない。Jリーグによる発展の可能性は皆さん感じているので考慮いただきたい。

(事務局)

県としては今後のJリーグ対応は視野に入れている。近隣のJ1チームのホームスタジアムを見ているともものすごく大きい。観客固定席は4万人～5万人、世界レベルの試合ができるような施設もある。そういう施設は政令指定都市等、人口が密集している都市で整備されており、周辺人口を含めても彦根市の人口を考えるとJ1までは厳しいと考えられる。まずは、J2対応までを想定しており、J1への道も閉ざすことなく、可能性の余地を確保した施設整備を想定している。Jリーグ対応は賑わいを創出することから、大変大きな効果を生むと思うので彦根地域が中心となりそれが全地域の盛り上がりにつながるように考えていきたい。

(委員)

先程の彦根市の話で、自分は主会場選定専門委員会の委員でもあったが、世界遺産登録と比較するような話はなかったので、ニュアンスの違いを感じる。

(事務局)

昨年度の主会場選定専門委員会では県内3カ所でどこに第1種陸上競技場を整備するかを選んだものであり、彦根に限定してどのような施設を作るかという議論でなく、まずは収容人数1万5千人、うち固定席7千席の最低限の第1種陸上競技場を作ろうというものだった。Jリーグ対応については現在県内にJ2、J3もない中でたちまち決めてしまうのではなく可能性を残しておくという結論に至った。今、彦根市だけにJリーグをどうするかと迫るのは厳しく感じる。ただ、彦根市は世界遺産登録という目標もあるので、あまり巨大なものを計画地に作るというのは彦根市の歴史や景観を考えても難しいと考えており、規模はできるだけコンパクトにし、木をたくさん植えて森を作るなど景観に配慮しながら整備したいと考えている。

3. 審議事項

● 審議事項(1) 施設規模やその他導入機能について

- 彦根市景観計画による3つの視点場(松原湖橋、矢倉川橋、大洞弁財天)からの彦根城の眺望、また、主要な施設の規模やその他公園への導入機能についてそれぞれ事務局から説明。

- 質疑応答

(座長)

〈第1種陸上競技場の施設高さについて、〉長崎の事例は高さが抑えられているが何か特別な理由、構造的な工夫があるのか。

(事務局)

詳細の検証はまだしていないが、長崎は固定席が全周に周っていること、および観客席を2段としている事等によって高さを抑えていることが推察できる。

他事例を見ながら高さを抑えていきたい。

(委員)

先催県の配置図を確認すると、歩いて周遊するものと車で周遊する前提の公園がある。一般利用者が気軽に利用するためには、ウォーキング・ジョギング・散歩は外せない。そのために、歩いて楽しい施設とすることが大事である。

前回の現地確認の印象は、既存の施設間が分断されており、歩いていて全然楽しくなかった。木を植えて緑を増やすほか、公園全体を上手く周遊できる工夫をして頂きたい。国体が終わった後も地元の人が気軽に利用できるようにしてもらうことが重要である。

(座長)

「周遊」という視点を考えるのは大切だと思う。

(委員)

見ている楽しい施設にしなくてはジョギング・ウォーキングでの利用に繋がらないし、ある程度整備しないと走りづらい。

(委員)

都市公園としての開発になるが、生態系を保全・復元する視点も加えて欲しい。

使い方として、ジョギングも虫取りもできるなどという視点がよいのではないか。スポーツする際には虫が問題になるかもしれないが、殺虫剤で駆除するのではなく自然の力で抑え込む方法なども考えられる。環境先進県としての力を見せて欲しい。

また、これからの時代、エネルギー問題は外せない。再生可能エネルギーの活用など、単にスポーツ施設のみでなく、環境先進県としてのシンボルとなるような施設整備が望ましい。「世界遺産と国体」という難しい問題に取り組んでいかなければならないが、世界遺産登録を目指すのであれば、環境の視点も忘れず、県と市の連携が必要である。

(座長)

公園は、子どもたちが色々なことを発見できる場所でもあり、環境へ配慮する必要がある。

(委員)

陸上競技場などの運動施設については専門性を取り入れて欲しいが、長期的に利用するのは地域の県民なので、都市公園として、スポーツをしていない人でもいつでも利用できるというコンセプトは良いと思う。

(委員)

各視点場からの眺望について、風致地区の高さ規制 15m もシミュレーションで検討

して頂きたい。

また、都市公園法における基準である運動施設率や建ぺい率について、分母となる公園全体の敷地面積は、(仮称)彦根総合運動公園のみの敷地面積を想定しているが、隣接する市営の金亀公園の敷地を加味した検討はしないのか。

(事務局)

眺望のシミュレーションについては検証を行っていく。

また、都市公園としての整備は、県の施設単独で考えており、金亀公園の敷地面積を含んだ検討はしていない。ただし、利用形態としては、今もそうであるように、金亀公園と連携した一体的な利用もあると考える。

(委員)

景観に関して、歴史的にみると、玄宮園から佐和山の方に向かって松原内湖を利用していたという背景があるので、玄宮園から計画地への視点も含めて検討して頂きたい。

(座長)

玄宮園からの視点は重要であると思う。

(委員)

駐車場については、国体以後の使用も含めて考えると、分散して配置することにより様々な利用者が安心して利用できるような配慮が必要である。また、例えば歩行者が外から見て競技場等で何をしているか分かるような施設整備がされると、観覧者と競技者との一体感も生まれていくのではないか。

(委員)

長崎の事例は高さ、コンパクト性、収容人数において、非常に参考になると思う。選手の視点のみでなく、観客の視点から言っても長崎は観覧しやすいように思う。国体後、維持管理コストの低減につながる収益をもたらす施設にするためには観客からの視線は大事である。単に、「体育施設」とか「陸上競技場」という競技者視線だけでなく、集客できる施設でないと駄目だと思う。

(座長)

長崎の事例は、屋根を軽量のものにしているように思える。他にも、高さを抑えるように、構造的な工夫を行っている可能性がある。

(委員)

視点場からの眺望写真に高さを明示するにあたって、高さはどう割り出したのか。

(事務局)

既存の建物、地物を用いて、その比率により推測した。

(委員)

現在はいいが、最終的な設計段階になると CAD 上での検討になってくると思う。すると周辺地形も含めて写真と合成しなければならない。例えば大洞弁財天はレベル 124m あるが、ここから見下げることになると、同じ高さでも見え方が違ってくるため、シミュレーションのみが独り歩きしないように注意する必要がある。

(座長)

シミュレーションにあたっては視点の設定と高さの取り方に注意が必要である。また、先に意見のあった規制の高さライン 15m もいれると分かりやすい。

(委員)

彦根が有している、城下町というしっとりした雰囲気は絶対に壊してほしくない。スポーツする者・しない者、観戦する者・しない者、誰もが利用できる施設にして欲しい。また赤ちゃん連れのお母さんが散策等された時に授乳室が必要だと思う。よその真似をする必要はなく、彦根は彦根のいい所を十分に活かして皆様に誇れる施設になればと期待をしている。

● 審議事項 (2) 施設の配置計画について

・ 第 1 種陸上競技場の配置、その他主要な施設の配置計画について事務局から説明。

・ 委員意見のポイント

各委員からは、利用者の安全性や利便性、身体障害者への配慮、合理的な施設の整備、景観への配慮などの視点から意見がだされた。

4. その他

・ 今後の予定等、以下の点について事務局から説明。

- ✓ 次回(第3回)懇話会は、12月25日(木)9時半～12時に実施。会場は今回と同じ。
- ✓ 来年1月から2月にかけて県民意見募集を実施し、その後、第4回懇話会を2月末頃に開催予定。
- ✓ 第3回懇話会以降は懇話会設置要綱第3条第5号に基づき、特別委員として、近隣の自治会から代表者2名に参加いただく予定。
- ✓ 12月中旬には周辺自治会長を対象に、23日・26日には周辺住民を対象とした説明会を開催する予定。

5. 閉会

(以上)